

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	イケア弥富配送センター拡張工事	階数	地上2F
建設地	愛知県弥富市上野町2-1	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、防火指定なし	平均居住人員	200 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年5月1日
敷地面積	133,778 m ²	作成者	長谷川博一
建築面積	30,176 m ²	確認日	2017年5月1日
延床面積	31,039 m ²	確認者	長谷川博一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準値 BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 76%

③上記+②以外の 76%

④上記+ 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
4.4 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
2.2 部品・部材の耐用年数								
2.4 信頼性								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39	-
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.79		4.0	0.02		-	4.0
2 自然エネルギー利用		採光トップライト設置		4.0	0.27		-	4.0
3 設備システムの高効率化				4.0	0.42		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI _m =0.00		4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)							-	
4 効率的運用				3.5	0.28		-	3.5
集合住宅以外の評価				3.5	1.00		-	
4.1 モニタリング		区分分けによるモニタリングが可能		4.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							-	
4.1 モニタリング							-	
4.2 運用管理体制							-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護				3.8	0.15		-	3.8
1.1 節水		無水便器採用		4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用仕組みあり		4.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63		-	3.1
2.1 材料使用量の削減		梁SN400材、柱SS400材を使用		4.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-		1.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	仕上げと躯体、設備が分離可能な構造		5.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		☆☆☆材料の使用		5.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				3.9	0.33		-	3.9
①		太陽光発電パネルを設置している		3.9	0.33		-	
2 地域環境への配慮				2.6	0.33		-	2.6
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	独自	敷地内駐車場、導入路長さを確保		5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音	独自			3.0	1.00		-	
2 振動	独自			-	-		-	
3 悪臭				-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.3	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制							-	
3 日照障害の抑制		日影規制についてワンランク上をクリア		4.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のつち外に漏れる光への対策				3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

イケア弥富配送センター拡張工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:0.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 イケア弥富配送センター拡

計画上の配慮事項	
総合	<p>既存配送センターに対して、必要機能増による増築計画。</p> <p>機能性、安全性、従業員の快適性を考慮した建物計画。 周囲に緑地を配置し、建物をセットバックすることで、周辺への影響を低減した配置計画。</p>
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミサッシの遮音性能はT-2としている。 ・事務室にトップライトを設けている。 ・事務室内は全般照明とし、照度は500lxとしている。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水の中水利用を行っている。 ・非常用発電を設置している。 ・床荷重にゆとりを持った設計としている。
Q3 室外環境(敷地内)	<p>敷地内に十分な空地を設けている。 増築部分の高さ、色は既存建築に合わせている。</p>
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電設備を設置している。 ・排煙兼採光トップライトを設置している。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・無水便器等により節水に努めている。 ・雨水をろ過機械室、貯留槽へ貯めて中水利用を行っている。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりある敷地を活用し、従業員駐車場を確保。 ・敷地周囲から建物をセットバックしている。
その他	